

◇第59回女性部定期大会

日時 10月20日(火)開会10時
会場 県民文化センター分館8号集会室

◇第59回青年部定期大会

日時 10月21日(水)開会10時
会場 県民文化センター分館10号集会室

自治労茨城

水戸市桜川 2-3-30 自治労茨城県本部
Eメールアドレス kenhonbu@j-ibaraki.jp
編集発行人 = 黒江正臣
毎月5日の日発行
定価 = 1部5円(組合費を含む)
印刷所 = 凸紋字

駆けつけていただいた来賓の皆様



杉谷尚彦自治労中央本部副中央執行委員長



和田浩美連合茨城会長



佐藤光雄民主党県連副幹事長(茨城県議会議員)



井坂章社民党県連合副代表(ひたちなか市議会議員)



東中健全自治労茨城県本部専務執行委員長



郡司彰参議院議員



◆藤田幸久参議院議員 富田秘書

時崎雄司自治労茨城県自治体退職者の会会長

◆二川英俊茨城県議会議員

◆今井路江北茨城市議会議員

◆大足光司高萩市議会議員

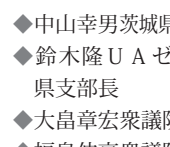
◆遠藤実那珂市議会議員

◆菅谷毅鹿嶋市議会議員

◆河野俊雄行方市議会議員

◆中條悟中央労働金庫水戸南支店長

◆相楽衛茨城平和擁護県民会議事務局長



◆中山幸男茨城県教職員組合書記長

◆鈴木隆U Aゼンセン同盟茨城県支部長

◆大島章宏衆議院議員 佐藤秘書

◆福島伸享衆議院議員 渡邊秘書

第108回 県本部定期大会

賃金・労働条件・組織の向上を のべ27人の代議員が発言

県本部は10月2日、3日の二日間、ひたちなか市那珂湊総合福祉センターで第108回定期大会を開き、代議員・傍聴者が二日間で延べ373人が参加する中で、2016年度運動方針、当面の闘争方針を決定。2015賃金確定闘争、現業・公企統一闘争に全力で取り組む決意を固めました。



団結ガンバローで闘う決意を固めた第108回定期大会

大会は、長島(神栖市職)、賀波澤(県職)代議員を議長団に選出したあと、執行部を代表して黒江委員長があいさつし、2015賃金確定闘争の取り組み強化や戦争法案の強行採決、原発再稼働を強行する安倍政権との対決と来夏の参院選「えさきたかし」の必勝を訴えるとともに、大会の方針を補強する討論を呼びかけました。引き続き、杉谷中央本部副執行委員長など

各来賓から激励と連帯のあいさつを受けました。議事に移り、一般経過、政治活動、決算、監査がそれぞれ報告されました。

質疑では、「市長選の勝利と支援御礼」(牛久・菊池)、「水郡ブロック学習会の取り組み」(大子・石井)、「中央図書館以外の指定管理者制度導入問題と農業共済職員の身分を守る闘い」(水戸・海野)、「確定闘争妥結結果の丁寧な表記と号俸延長の取り組みの記載を」(日立・鴨志田)、「中途採用者の賃金は正の取り組み」(日立・富田)、「市民病院労組結成に向けた取り組みと子の看護休暇

と産前産後休暇の拡大」(北茨城・市毛)、「労働安全衛生委員会活動を通じた職場環境改善」(日立・岡部)、「県本部女性部の活動」(鹿嶋・大島)、「市

質疑討論では、藤田衛生医療評議議長(県職連合)が議長を務め、黒江執行委員長承認(菅谷毅鹿嶋市議会議員)を執行部が提案しました。質疑討論では、藤田衛生医療評議議長(県職連合)が議長を務め、黒江執行委員長承認(菅谷毅鹿嶋市議会議員)を執行部が提案しました。

このあと、一般代議員が発言。「精神科救急に伴う搬送体制の整備・強化と、措置入院を求めべきかの見解を」(ひたちなか・横田)、「医療保険制度改革における共済組合の拠出金負担増と年金一元化問題、共済保養所施設の利用促進を」(市町村共済職組・佐藤)、「賃金確定闘争における基本組織と評議会二体の取り組みを」(大子・国谷)の7人の代議員が発言し

翌日は、冒頭、郡司参議院議員があいさつに駆けつけ国会状況などを報告しました。引き続き質疑討論に入り、黒江執行委員長承認(菅谷毅鹿嶋市議会議員)のビジョンに向けた県本部のビジョン

影響するので反映させない方針化を」(日立・富田)、「再任用と定年延長問題についての状況と退職金の算定について」(水戸・海野)、「人事評価制度で賃金反映されれば、労働条件の変更であり労働交渉事項。管理運営事項で交渉しないとされれば問題。丁寧な指導を。官民格差を現行給与に反映させる取り組みの指導を」(水戸・鈴木)、「フレックスタイムはコアタイム以外の業務と人員をどうするかが課題だ。メリット、デメリットなどを示し具体的な方針を」(ひたちなか・後藤)の10人の代議員が発言しました。

これに対する執行部答弁のあと、黒江執行委員長が議長を務め、黒江執行委員長承認(菅谷毅鹿嶋市議会議員)のビジョンに向けた県本部のビジョン

「原発再稼働に抗して運動を地域からどう根付かせていくのか」をテーマに蓮井誠一郎茨城大学人文学部教授が講演。また、双葉町の「原子力、明るい未来のエネルギー」のキャッチフレーズ考案者・大沼勇治さんから「福島からの訴え」があり、町のキャッチフレーズ看板撤去反対の取り組みなどが報告されました。

このあと参加者は、集会アピールを採択したあと、デモ行進し、街頭の市民に訴えました。

事故の教訓は再稼働NO

JCO臨界事故で集会



事故を風化させないと300人が水戸市内をデモ行進

9月26日、水戸市で「JCO臨界事故16周年集会」が開かれ、約300人が参加しました。集会では、鈴木博久茨城平和擁護県民会議代表が、「事故の責任を取らない無責任体制のまま再稼働を進めている。東海

第2も再稼働の動きがあるが断じて許してはならない」と訴えました。続いて、藤本泰成原水禁事務局長が、「目先の利益をめざして原発の再稼働をしようとしている。人間の尊厳をこれほどまでに否定している」

と安倍政権を批判、「命が大切にされる社会に変えていこう」と訴えました。村上達也前東海村長からは、「JCO事故の原因や監督責任など説明すべき点がたくさんあったが蓋をした。だから、JCO事故から福島原発事故は一直線のもの。地震・火山・人口が多い、避難先がない日本に原発は作れない」と指摘し、「再稼働の安倍政権と真つ向から勝負しなければならぬ」と訴えました。

このあと参加者は、集会アピールを採択したあと、デモ行進し、街頭の市民に訴えました。



参議院特別委員会での強行採決時の混乱の場面

えさきたかしの活動レポート

9月17日16時過ぎで。解任動議が否決され、任を解かれていた鴻池委員長が再び委員長席に座ります。すると「議事を再開します」と「速記を起してください」といった議事再開の定例を省き、いきなり法案採決にはいる旨の発言を行ないました。詰め寄る民主党の理事。それを見

た自民党理事が合図を出す。すると用意周到に準備した淡々とその時を待っていた自公の少々大柄な議員たちが、委員長席に雪崩れ込むではありませんか。驚いた僕らも委員

長席に駆け込み、委員長包囲網を築く。議員と組み合の肉弾戦です。こんな組み合いは久しぶりというか中学生の時の友人との喧嘩以来です。背広が敗れた人もいました。僕もいつもながら総理大臣が座っている席の肘掛け部分に足をかけ(その時はすでに安倍総理は少し離れた席に移動していたようですが、良く覚えていない。とにかく総理の席と官房長官席は空いていた)、頭上の委員長席にいる佐藤議員(あの髭の自民党議員)に掴みかかろうとし

強行採決の瞬間。

ZENROSAL NEWS 5113A300

じちろうマイカー共済は「標準型」から

自動車総合補償共済

ココがポイント!

- ① 長期間、無事故の優良ドライバーに有利! 最大22等級 64%割引
- ② 職域掛金と10%の団体割引
- ③ 24時間365日安心のサポート体制

自治労共済生協 組合員用の掛金で提供中

自治体職員に心強い 弁護士費用等補償特約 (賠償対応補償付)を標準型にセット

特約や割引、車両損害補償の組み合わせでニーズに応えます

じちろう共済 Jichirokyosai

※ご契約にあたっては「じちろうマイカー共済」のパンフレットをご覧ください。



9.23 さようなら原発・さようなら戦争大集会

多くの国民の反対の声を押し切り、安倍政権は8月11日に鹿児島・川内原発の再稼働を決め、9月19日未明には、戦争法案を強行採決しました。 こうした国民世論を無視する安倍政権に対して、9月23日、「さようなら原発、さようなら戦争全国集会」が、東京・代々木公園で開かれ、全国から約2万5千人が参加しました。 集会には、呼びかけ人の大江健三郎さんや澤地久枝さん、鎌田慧さん、落合恵子さんなどが、原発再稼働を急ぎ、戦争法案を強行採決した安倍政権を鋭く批判。政権を変える運動の強化を訴えまし

さようなら 原発戦争に2万5千人 脱原発・戦争法廃案めざし集会

ニュースワード



サイレントデモ

シユプレヒコールをあげないデモのことです。プラカードなどを掲げて路上に立ち、通行人に静かに抗議のメッセージを送ります。 イラクでの邦人人質殺害事件(今年2月)の際、宗教者らが首相官邸前で実施。作家の澤地久枝さんが呼びかけ、全国各地で「アベ政治を許さ



メイソンジャー

ねじぶたのある保存用ガラス瓶のことです。 19世紀半ばに発明され、密閉性が高いことから家庭用の食品保存に利用されてきました。名前は発明したプリキ職人のジョン・ランディス・メイソンに由来します。 近年、アメリカの飲食店がねじぶたにストローの挿し口をつけ食器として利用すると

人気が沸騰。商品化されたものが日本でも出回るようになりました。 スムージー(シャーベット状の飲み物)などの飲料の携帯用としても、ピクルスやサラダなどの保存容器としても使えます。作りおきしたサラダを入れて楽しむ「ジャーサラダ」という用語も生まれています。

無料法律相談、随時OK

自治労茨城県本部では、無料法律相談を随時行っています。労働・生活に関わる悩み事などお気軽にご相談ください。自治労茨城県本部顧問弁護士が相談に応じます。

◆相談先 自治労茨城県本部顧問弁護士 丹下 昌子 水戸市南町3丁目4番57号 水戸セントラルビル3階 丹下・小沼法律事務所 電話 029-224-5150 Fax 029-226-2191

尚、法律相談は、依頼者(相談者)が丹下・小沼法律事務所に直接電話し、相談日程等を決めて下さい。法律相談は、個別事案ごとに、初回の法律相談を無料とし、2回目以降は所定の報酬および経費を依頼者(相談者)が支払うことになります。

全労済 全国労働者共済生活協同組合連合会

全労済 自治労共済本部 全日本自治体労働者共済生活協同組合

保障のことなら 全労済

全労済は、営利を目的としない「保障の宝庫」として、労働者を主眼とした、組合員の皆さまの安心・安全を第一に活動しております。出資金を募り、必要に応じて給付金をお支払いいたします。